



(照參(二)例實號前)

# 觀察のさせ方(二)

堀 七 藏

## 五、統覺發達の實例(三)

尙ほ統覺の發達を檢するため、兒童に一分間牧牛の繪を觀察させた後、その繪をとり去り觀察の結果を想起して記述せしめた文章を読みませう。各學年四人づつあります。が、似寄りでありますから一人宛の記述を朗讀いたしました。比較して下さい。だんく複雑に關係的に統覺し、それに情趣が加味せられてゐることがよく分ります。

一年 男 イヒモト

コドモガ ウシノチチヲシボリニイキマス。ウシハ、モウモウトナイテイマス。ムカウニウシノ、イヘトス、ギノ、キガアリマス。ムカウニウシガ ニヒキイマス

二年 男 碧 海

うしが三びきぬました。うしごやもありました。子供が二人でうしになにかやつてゐました。むかうのはうにはたがみえました。木がたくさんはえてゐるところもありました。

三年 女 川 崎

女の子が、いすを持つて、男の子が、ばけつを持つてゐます。うしが三匹ゐるから、そのうしのぎゆうにゆうをとるのでせう、むかうに大きな木があつて、そこにうしが、こないやうにかこえがしてあります。そこに家があつてそこにもう一本か二本あります。ひろいのはらです。

四年 女 海 田

牛が三匹ゐて、牛使らしい男の子と女の子が牛を引つはつてゐます。女の子の手にはちちをとる道具をもつてゐました。二匹の牛ははなされて、ゆかいさうに運動してゐます。向つて右かには牛ごやがあつて、くるま等がゐてあります。空にはよいお天気と見えてすこしくもがかかつてゐます。

五年 女 廣瀬

白いぼうしに黒いすじの入つてゐるぼうしをかぶつた九歳位の西洋人の男の子と、白いぼうしに赤いリボンがついてゐるぼうしをかぶつたやはり九歳位の西洋人の女の子とが茶色と白のまだらになつてゐる牛をひいて牧場を歩いて居ります。たぶん此の子供二人は友達でせう。

向ふの方にも同じやうな牛が二匹居ります。男の子は赤



い洋服に青づぼんに青いくつ下をはいて、女の子は黄色な洋服に青いくつ下をはいてゐます。繪に向つた左には牛ごやが小さく見えます。色は茶色で木で造つてあります。牧場のかこひの向ふは茶島があつて、となりには緑の島がありま

す。緑の島には何にか植つてゐるのでせう。そのとなりもあるのでせうが牧場に木が澤山生えてゐるので見えません。空は白い雲が一すじ太く横たはつてゐて、あとは美しいきれいな青い空が見えます。

六年 女 西脇

赤い上着で青いズボンをはいた男の子と、黄色の洋服を着た女の子が大きな牛をつれて歩いてゐる。男の子はバケツを持ち、女の子は椅子のやうな物を持つて如何にもうれしさうである。その横を牛がつのを立て、ゆつくりのどかに歩

いてゐる。大ていお父さんの言ひつけで廣くて自由な野原へ連れて行くのであらう。

向ふ方のこい緑をした木の前で、二匹の牛がさも見送りを、やうに並んでゐる。この牛達は小さな可愛い、御主人のお歸りをおとなしく待つであらう。その横には物置のやうな家があり、荷車が置いてある。家の横には小さいさくがある。その向ふの空はどこまでもくすみきつてゐるのであらう。その青い所へぼつかり浮んだ白い雲。とてもよいつり合である。

田舎は實にのどかである。

高一 女 藤 田

空のすききられた廣い野原の先には一軒の西洋館の家があつて、其の後にはかき根をはられた中に、田か畠の様なのがあり、其の家の前に牛が二匹氣持よささうに遊んでゐる。

赤い上着を着て青いヅボンをはいた男の子と女の子は白いので赤いばらの花の飾のついた帽子をかぶり、黄色の洋服を着て、男の子はバケツを持ち、女の子はバケツの裏らしい物を持つて、仲よく歩いて居る。後に牛はしかたなさ

さうな不平らしい顔をしてついで行く。子供はえさをやるのが牛には分らないらしい。多分やるのであらうが牛は不平らしくつきまとふ。

高一

佐々木

空は緑にはれて氣持よく、處々に眞白な雲が浮いてゐます。遙か向ふの方は少し高い丘の様になつてゐて、黄色く何か畑の様で、そこに黒い線が横にすつと通つて居ます。少し手前に茶色の屋根に紫と白の壁の家があります。家の少し右側に柵が出来てゐて、又その右は木の一ばい茂つてゐる所です。すつと手前に緑色のくさが生えてゐて、その上に二人の子が立つてゐます。一人の子は白い地に赤いリボンをつけた帽子の間からふさ／＼とした金髪を出してゐるし、一人の子は男の子らしかつた。前の子供は何か三脚の椅子の様なものを持ち、一人の子はバケツの様な物を持つてゐる。二人の直ぐ後には大きな體の牛が白と茶色のまだらな體をのそりとして立つてゐる。又はるか向ふの方に、やはり白と茶色のまだらの牛が二匹親しげに語りあつてゐる様に見える。二人の子供の直ぐ後にゐる牛はまる／＼と

肥えてゐる。地面は向ふの方が高く、手前の方が低い坂になつてゐて真中に道がある。

さてこの牧場の景色を表現した繪を観察した兒童の發表

が段々詳細になり、また情趣が加つてゐることがまことに明白である。第五學年から格段の進歩を示すことは勿論、文章表現が上手になるためもあるが、また統覺作用が著しく進歩し觀察が精細に行はれることを物語るものである。

## 六、統覺發達の實例(四)

最後に兒童の前に提供した繪は可也複雑した小さなものである。大人が見てもその全體がまとまつたものかどうかも中々分らないし、部分々々も一寸判斷のつき兼ねる材料である。それで兒童の判斷には中々の相違がある。



ヒトガイヌラツレテイキマス。コチラノホウニベースボ  
ルラシテイマス。ムカウニヒトガヒガサラモツテイマ  
ス。

一年 男 飯本

二年 男 碧海

あひるが二はゐました。犬をつれた人もゐました。こどもが二人でやきうをしてゐました。うしもゐました。小さな子どもがひとりでなにかしてあそんでゐました。

女の人があんまりあついでかさをひらかうとしてゐました。女の子が一人でおもちやのうまでくるまをひいてあそんでゐました。

三年 男 海老原

こうゑんの、のはらでいろくの人たちがあそんでゐます。牛が一匹ゐます。あひるもゐます。あひは二匹です。

ある二人の男がキヤツチボールをしてゐます。

にもつをつんでおもちやの馬にひかせて行く女の人がゐます。男の子どもがへんなものをつるしてゐます。女の大きい人が一人はからかさもつて牛をつついてゐます。一人はそれをみてゐます。あるしんしが大きないぬにひもをつけてあるいてゐるときゆうに犬がはしりだしたのでそのあとをおつかけてゐます。

四年 女 海 田

いじんさんの國の公園で。七人の人がやきうやおもしろいことをしてあそんでゐて、犬は二匹ゐて、がてうが二羽ゐて、とりのはねが一つおちてゐます。

おもちやのうまのうしろに、肉がたくさんのせてあつて、其のあたりは芝でいつばいです。二人の女の人はひより傘をさして長い洋服をきてあるいてゐます。女の人のうしろに犬が一匹ゐます。犬をつれてあそんでゐる人もあれば、さんぽをする人もあります。まつしよう面に木がたくさんしげつた所があります。世の中はさまざまである。

五年 女 村 林

廣い廣い廣場がある。此處には芝が生えて居ります。西洋人がいく組でもピクニックをしてゐます。かたはらの方にがてうがちよこく歩き廻つて居ます。芝の中に一すじの道がまがりくねつて居る中程で花むこと花嫁とが居る。これもやはり西洋人である。花嫁さんはハイカラなパラソルをさして居ます。花むこさんは大きなシルクハットをかぶつて居ます。又こちらには十八位の女の人が赤ちやんを入れておくうば車の中になんだか、さつぱりわからない黄色い物が入つて居ます。此のピクニックは皆たのしきさうです。

六年 男 穴 道

子供や大人がたくさんゐる。家鴨が二羽居て、何か話してゐるやうだ。一羽は羽をひろげてゐる。小さい子供も居て、おもちやの馬になんかをひかせてゐる。

僕達ぐらゐな子供が野球をやつてゐる。一人はバットを持つて立つてゐる。もう一人は球を持つて今なげたところだ。二人しかゐないのにほんとうの野球のつもりであらう。

その向ふには大人が犬を引いて居る。その人の犬は向ふに立つてなにか話してゐる二人の人の後に猫がゐるのを見

て一生懸命その猫に飛びかからうとしてゐるが、犬を引いてゐる人が手を放さないで、どうも飛びつけない。大人の人でも犬があまり向ふへ行かうとするので行かせまい行かせまいとして腰をまげながらがんばつてゐる。そのやうすはとてもこつこついである。

向ふに居る二人の人はそんな事には一向平気でずつと向ふの方の景色をながめながら色々な話をしてゐる。猫も犬をこはがつて二人の人の後へかくれてゐる。かうがいの野原も面白い。

高一女 藤田

廣い野原の中頃に細い道がうねり通つてゐる。その先には男の人とこうもりを持つた桃色の洋服を着た女の人があるかと思ふと、道の中頃には青いせびろの洋服を着た男の人が犬の首に繩が掛けてあるのを、犬が行かうとすると



(照 參 (一例實) 號 前)

を引張つて犬が大變苦しさうに見える。道の右側には牛が一匹、いうくと歩いて居て、左かには二人の男の子がまりなけをしてゐるかと思へば。又小さい男の子が車に袋の様なものを積み込んでおもちやの馬をつけて遊んでゐる。

さう思ふと白いきれいなアヒルが二羽、羽をひろげて遊んでゐる。又男の子が何か一つものをぶら下げてうつむいてゐる子も居て、野原は非常にぎやかだ。

高二女 森

ながらあるいて居ります。幼い男の子はおもちやの馬に何かひかせて可愛らしい手にむちを持つて馬をうつまねをして居ります。男の人が犬のあばれるのをとめて居ります。

五つか六つ位の男の子がしばふの上にすはつて何かいたづらをして居ります。そのそばには二羽のあひるが何かにおどろいたやうに面白いかつこうをしてとんで行きます。馬をひいてゐる男のそばにボールを下に置いて何か木みたいのでそのボールをもう少しでうたうとして居ります。

この例に於ても一年では、一、人が犬をつれてゐます。

二、こちらの方にベースボールをしてゐます。三、向ふに人が日傘をもつてゐます。と、僅かに主要な三事項しか上げてゐない。しかし人と犬、人とベースボール、人と日傘と人を中心にしてゐる點は注意すべきである。二年になると、一、あひるが二羽ゐました。二、犬をつれた人もゐました。三、子供が二人で野球をしてゐました。四、牛もゐました。五、小さな子供が獨りで何かして遊んでゐました。六、女の人があんまり暑いのでかさを開かうとしてゐました。七、女の子が一人で玩具の馬で車を引いて遊んでゐました、と七事項を上げてゐる。個物を羅列してゐるのであるが、殆ど残りなく觀察してゐる。そして各個物の動

作、活動を大體正確に觀察してゐる。所が第三學年になると先づ「公園の野原でいろ／＼の人達が遊んでゐます」と總括をなし、それから個々のものゝ活動を一一觀察してゐる。しかも活動的な方面が發表せられてゐる。また第四學年でも先づ「異人さんの國の公園で七人の人が野球や面白いことを遊んでゐて、犬は二匹ゐて、鶯が二羽ゐて、とりのはねが一つ落ちてゐます」と繪に現はれてゐるものを總括的に述べてゐる。不思議なことには牛が忘れられてゐる。そして個々の主要なもの、殊に二人の女と犬につき比較的詳細な解説をなして、前後に「世の中はさまざまである」と結論を述べてゐる。第五學年も第四學年同様「廣い／＼廣場がある」と述べて最後に「此のピクニツクは皆たのしさうです」と情趣的な結論を下してゐる。

第六學年では相當情趣的な方面を觀察してゐる。殊に犬と猫との動作が大變詳細に述べられ、それぞれの動作が情趣的に取扱はれ、最後に「郊外の野原も面白い」と結んでゐる。高等科に至つても第六學年と大差がない統覺が行はれてゐる。大人でもまづ大體同様な統覺しか行はれない位である。